

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071900866		
法人名	有限会社エイエスサービス		
事業所名	グループホームサンホーム		
所在地	福岡県田川市大字川宮1711-29		
自己評価作成日	令和3年11月10日	評価結果確定日	令和3年12月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズン
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和3年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出来るだけ入居者にルールを作らず、自分のペースで生活できるように取り組んでいる

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関に「人生とは、その人らしく生きること」の理念を大きく掲示し、日々具現化に努めている。管理者はできるだけ入居者の話を聞いてほしいと日頃から伝え、職員はゆっくりと話し相手になっている。起床、朝食、就寝時間は本人に合わせた日課となり、早朝5時過ぎに朝食を食べる方もあり、「家に帰りたい」は、「どうぞ、気を付けて」と送り出して同行し、歩けない場合は自宅まで車で送ることもあるが、家に入らずホームに戻って来たり、「今日は寒いので、止めておこう」となっている。他のホームに馴染めなかった入居者も落ち着いた生活を送られているが、看取りもその延長線と捉え、今年度は数名の方を看取っている。コロナ禍の中、LINEやメールで入居者の姿などを家族に届け、率直な意見を表出できる関係を構築している。市の担当者等から入居の紹介や相談もあり、今後も地域密着型サービスとして、理念の具現化に取り組む、穏やかな暮らしの継続が期待できるホームである。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **1号館／グループホームサンホーム**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者が日頃から事業所の理念について話し職員に理解を深めるように実施している	玄関に理念の「人生とは、その人らしく生きること」を大きく掲示し、日々具現化に努めている。入居者の其々のペースや思いをそのまま受け入れ、他のホームに馴染めなかった入居者も落ち着いて生活されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として一斉清掃や日頃から近隣の道路等の清掃を行っている	近隣の草刈りや清掃活動は継続されているが、コロナ禍の中で、地域の行事や県立大の実習生の受け入れは中止されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	通常は地域貢献として町の依頼を受け認知症の理解を深める講座を実施しているが新型コロナウイルス感染症対策として実施していない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催をしているが新型コロナウイルス感染症対策として回覧方式での会議を行っている	ホームの現状や行事等の議事録は、メンバーである家族代表や死亡退去された家族等に送付し、意見を願っているが、特段の意見はない。議事録は玄関で公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所や地域包括支援センターと協力し空き状況の連絡等を行い協力関係を築いている	居室情報は、毎月担当課に報告している。地域包括支援センターや社会福祉協議会から入居の紹介や相談があり、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し社内研修等を予定していたが新型コロナウイルス感染症対策として現在回覧のみの活動としている	定期的な身体拘束適正化委員会や研修で、言葉による拘束を周知徹底し、行動を妨げない支援を実践している。家に帰りたいはどこまでも同行し、歩けない場合は自宅まで車で送っているが、自宅には入らずホームに戻られた入居者もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回は社内研修の場を設けているが新型コロナウイルス感染症対策として回覧のみとなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回は社内研修の場を設けているが新型コロナウイルス感染症対策として回覧のみとなっている	成年後見制度の資料を整備し、入居契約時に説明している。現在、権利擁護の制度を活用されている方はいない。	今後さらに多様な家族構成が想定されることから、日常生活自立支援事業や成年後見制度の内容やその違いを学ぶ機会を設けられ、円滑な支援を期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分に説明を行い、入居契約を怒っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、家族はいつでも管理者や職員に気軽に意見が言えるような関係を構築するよう取り組みまた、外部へも相談できるように連絡先を掲示している	面会制限が続いているため、LINEやメールで入居者のホームでの暮らしぶりを家族に報告し、家族の意見を伺っている。家族の要望もあり、請求書もラインで送付している家族もある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者兼管理者は常に従業員の意見を聞き入居者にとって必要なことはできる限り反映させている	入居者の状態変化などはグループLINEで共有し、毎月開催しているミーティングでは、気付きや意見を交換している。運営者は要望の反映のみならず、シャワーヘッドや洗濯機の備品などの購入、環境整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は出来る限り職場環境の整備に努め賃金の見直しや有給休暇の取得しやすいように取り組んでいる		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	代表者は職員採用にあたり年齢や性別を採用基準としていない	40代から70代の男女の職員が勤務し、開設当初からの職員もいる。職員の募集・採用に資格や年齢による要件は無く、新人研修は約1週間マンツーマンで、技術や入居者とのかわり方を指導している。夜勤専従者には、4、5日は日勤勤務で入居者の理解を促している。研修や資格取得を奨励し、毎年介護福祉士の合格者がある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に1回は社内研修の場を設けているが新型コロナウイルス感染症対策として回覧のみとなっている	行政主催の講演会も今年は開催されず、管理者は社会福祉協議会からもらったチラシなどを回覧して、人権啓発に努めている。職員とオンラインの研修を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や社外研修への参加は出来る限り行うようにしているが、新型コロナウイルス感染症対策として現在は行っていない		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	年に1回は他のGH職員の研修を受け入れしていたが、新型コロナウイルス感染症対策として去年と今年は実施していない		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人が不安や困っている事、要望などを聞き安心して入居できるように支援している		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの開始前にご家族の考えや要望などを聞き協力関係の構築に努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時は特に入居者が不安なく安心して生活できるように細心の注意をしてサービス提供を心掛けている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共に過ごす関係であるようにできる限りは入居者と職員が共同スペースで過ごせるようにしている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者がホームで安心して過ごしていけるように家族にも情報提供をして協力をお願いしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	原則として、面会時間等の制限は行っておらずいつでも立ち寄れる場所としているが新型コロナウイルス感染症予防として去年、今年は一時的に面会の制限を行っている	毎日面会に訪れていた家族もあり、最近ようやく玄関先での面会を再開している。2か月毎の訪問理容は継続している。間違い電話で通話料金が増えたことを家族に報告し、携帯電話契約を解除された方もある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の人間関係を職員が観察しながら必要に応じた対応と支援を行っている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもホームとの行き来があり必要な場合には協力してもらっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望や思いを出来るだけ聞いて出来る範囲でその時に解決するようにしている	入居者の情報を細かくアセスメントに整備し、起床、朝食、就寝時間は本人に合わせた日課となっている。管理者はできるだけ入居者の話を聞いてほしいと日頃から伝え、職員はゆっくりと話し相手になり、思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴や暮らし方と現在の心身の状況を見て生活環境を把握している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりのペースに合わせて現状の機能維持に努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホームでの生活が長く継続できるように本人、家族の意向を聞き又スタッフ間でも話し合い介護計画を作成している	グループラインで日頃の心身の状況を共有し、ミーティングでの気付きや課題、家族の要望を反映した介護計画を作成している。入居者の状況変化や対応できない変化は随時話し合い、より現状に即したケアを実践している。	個別性のある具体的な介護計画の作成でモニタリングを容易にし、理念の「その人らしく生きること」を反映した計画の見直しを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の変化はその都度記録に残し、職員間での情報共有は、口頭やホワイトボードに記入し全員が把握できるようにしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人ひとりの状況、状態の応じて必要なサービスを検討、実施している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の必要な地域資源があれば活用して頂き心身の力を発揮できるようにサポートしている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ入居前から利用していた医療機関を継続して、関係を構築している	入居前のかかりつけ医の受診を支援しているが、訪問診療を受診する入居者も2名いる。週1回訪問看護師が訪問し、連携しながら健康管理や適切な医療受診ができるように支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携している訪問看護ステーション職員に日々の状態報告をして、受診の必要の有無などを助言してもらっている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合は毎日のように面会するようにし早期退院できるように家族を連携している。去年、今年は新型コロナウイルス感染症により面会できない為、家族に連絡し早期退院できるように支援している		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応について説明を行い実際に重度化や終末期に近くなってきた場合は、家族と話し合い、本人と家族、事業所と医療機関で方針を決めて支援している	入居契約時に重度化した場合の対応と看取りに関する方針を説明し、同意書を取り交わしている。本人や家族の希望で、主治医や訪問看護ステーションと連携しながら今年度は、数名の方を看取っている。職員は、穏やかなホームの暮らしの延長線上に看取りがあると捉え、できる限りの支援をしたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルを作成、職員は事故発生に備え、急変時は迅速な対応が出来るようにマニュアル化している		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回は防災訓練を行い、年一回は災害訓練(火災以外)実施している	今年3月は入居者と一緒に連絡網を使った避難訓練を実施し、12月は消防署立ち合いの訓練を予定している。ホームは高台にあるため、市指定避難所には避難せず、別棟の倉庫の活用を検討している。備蓄した米や食料品の備蓄台帳を整備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者その人らしさを尊重して声掛け、介助を行い支援している	汚れ物を隠される場合は、職員が本人の目につかないように探し出している。「家に帰りたい」は、「どうぞ、気を付けて」と送り出すため、「今日は寒いので、止めておこう」になるなど、入居者の誇りやプライバシーを損ねない声かけや支援を実践している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ入居者本人が意思決定できるような声掛けを行うように心掛けている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ入居者のペースで日々の生活が送れるように必要以上に職員の業務時間の設定をせずにすぐに対応できるようにしている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人が培ってきた身だしなみやおしゃれができる様に出来る限り自宅から衣類などは持参してもらっている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ入居者一人一人の嗜好に合うように献立も各ユニットで考え入居者も可能な人は食器を片付けるなど協力してもらっている	決まったメニューは無く、各ユニット毎に職員が交代で食事作りを担い、早朝5時過ぎに朝食を食べる方もいる。昼食も好きな時間で提供されており、刻みやミキサー、ペースト状など、各々の嚥下や身体状況に合わせて、ゆっくりと完食されている。コロナ禍で外食の機会はないが、焼き芋大会は好評でおおいに賑わっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人に応じて食事の分量や水分補給の内容を検討して対応している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に入居者一人一人に応じた口腔ケアを行い対応している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄時間は一人一人に合わせ、リハビリパンツ、紙オムツ等は一人ひとりの能力に応じて選択して支援している	布パンツで排泄が自立している入居者もある。個々の排泄パターンを把握し、リハビリパンツの取り換えを億劫がる入居者には朝1回は必ず替える習慣をつけ、ポータブルトイレはこだわりのある場所に設置するなど、入居者に応じた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者個人に必要なに応じてヨーグルト等の乳酸菌食品、飲料などを使用して便秘予防に取り組んでいる		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	時間や曜日の設定をせずいつでも好きな時間に入れるように支援している	朝9時出勤の職員が、浴槽にお湯を入れている。週2回の入浴を目途にしているが、病院受診日の前日に入りたいや、毎日入浴したいなど、個々の要望に応じている。広い脱衣室はエアコンが設置され、同性介助の希望や2人体制で支援するなど、入浴を楽しめるように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間の設定をせず一人一人がゆっくと安心して入眠できる様に支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明は一人ひとりのファイルに綴じいつでも閲覧できるようにし、服薬状況を医師に報告し、錠剤や粉砕にしている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個人の能力に合わせて生活の中での役割(洗濯物たたみ、ゴミ捨て等)を持ってもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	去年、今年は新型コロナウイルス感染症予防の為医療機関への受診以外は出来るだけ外出しないようにしている。通常は入居者ひとり一人の意向を聞いて外出している	コロナ禍の中で外出は少ないが、管理者は落ち着いたら外食の機会を持ちたいと考えている。高台にあるホームの庭から景色を眺めて気分転換を図ったり、精米に行くついでに入居者とドライブ気分を味わうこともある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者ひとり一人の能力に応じて金銭管理を行い支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	固定電話や携帯電話(一部入居者)の使用は個人の能力合わせて行い対応している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が快適に過ごせるようにLED照明やペアガラス、トイレ内にエアコン設置、加湿器など設置し工夫している	コロナ禍の中で、各ユニットの入り口には大型の空気清浄器が置かれ、ホームのいたる所に空気清浄器や加湿器が設置されている。広いリビングは明るく清潔でテーブルや椅子、ソファが配置されている。廊下の端には座り心地のよさそうなソファが置かれ、ゆったりとした暮らしが伺える。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペース以外にもソファを置き仲の良い人と過ごせる場所を作り対応している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人の心身の状態に合わせて使い慣れた家具などを置き快適に過ごせるように取り組んでいる	居室の窓は、ペアガラスになっており、西日の差す部屋は、特殊な断熱シートが貼られている。入居者の身体状況に合わせたベッドが置かれている。物を壊してしまう方の居室には物品は置けないが、タンスや椅子、家族写真や位牌などが置かれ、居心地よく過ごせるよう整理されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り入居者ひとり一人が自立して生活できるように事業所内の物品配置に気を付けている		